

第18回狭山市民芸術祭 開催さる 大ホールを満席にした 市民ミュージカル公演!

2月20日(火)～25日(日)の6日間にわたり第18回狭山市民芸術祭を無事に開催することができました。幸い週末は天候にも恵まれ、展示部門の作品展示を皮切りに、茶席、舞台公演、企画展示や模擬店などが、賑やかに繰り広げられました。来場者数(延べ人数)は、展示部門2,816人 茶席250人 舞台部門1,657人計4,723人と、昨年を上回る賑わいを見せました。

展示部門では、1階ロビーのいけばな連盟による豪華なお迎花や、茶道連盟による狭山の抹茶「明松」を用いた茶席で来場者をお迎えし、展示部門では、美術家協会の大作、力作を始め、狂言入間川を観る会による大蔵流家元の狂言鑑賞会の舞台写真、市民美術協会の書・絵画・写真・手芸・工芸など、力が入った作品の数々が来場者を魅了しました。また、いけばな連盟各流派による「いけ花」展示会場は、伝統の美を感じさせる季節感にあふれた空間となっていました。



「ロミオとジュリエット」フィナーレ

小ホールでの「世代を超えて」では各ジャンルの発表があり、青少年文化体験フェスタ参加児童の子ども舞踊とフラダンスの披露に観客は拍手喝采でした。芸術祭最終日に上演された出演者を市民から公募して行われたミュージカル「ロミオとジュリエット」復活編では、昨年7月から毎週2日のペースで稽古や歌の練習が行われ、舞台経験ゼロの人からプロの歌手・俳優までが一体となって舞台創りに取り組みました。前売りチケットが完売になるほどの人気となった当公演は、大ホールを満席にした観客に感動をもたらし、ハッピーエンディングを迎えました。

大ホールロビーの市民参加オブジェでは、『私の心に残った一冊』を書いた書籍型の色紙が壁一面を埋め尽くし、来場者も思い思いの『私の一冊とひとこと』を熱心に読んで、楽しんでおられました。模擬店では狭山茶スイーツ・狭山団子・狭山のごぼりちゃんや、気仙沼特産品、手作り作品などの店舗に常に人だかりがして賑わっていました。

『いのち、愛、希望、ふるさと』をテーマにした公募文芸作品展示では、数多くの童句、俳句作品と随筆が紹介され、今年から始まった『狭山にゆかりのある文化人』を紹介するパネル展示では、江戸時代の国学家から現代の詩人・童話作家まで7名の功績や作品が紹介されました。

会員の方々、ご協力いただいた皆様、そしてご来場下さった市民の皆様、大変ありがとうございました。運営面での課題も多く残した今回の芸術祭でしたが、市民ミュージカルの大成功を力として、これからも皆さまに楽しんでいただける企画を立てて参りたいと存じます。どうぞ、引き続きご協力、ご声援をお願い致します。

第18回 狭山市民芸術祭 実行委員長 小川忠史